

凡例

凡 本稿は、拾遺愚草、下の部類歌の春、夏、秋、冬(四季)歌・2026〜2378の注釈である。底本は定家自筆本(『冷泉家時雨亭叢書』)に拠り、歌番号は、『藤原定家全歌集(冷泉為臣編)』に従った。新編国歌大観③は、上^レの末に藤川百首(1501〜1600)を入れているために、(ほぼ)百番ずつずれている。なお注釈中の「全歌集」は、『訳注 藤原定家全歌集』のことである。略称は以下の如くである。

『新古今歌人の研究』久保田淳、昭和四八(一九七三)年…久保田・研究

『藤原定家研究(増補版)』安田章生、昭和五〇(一九七五)年…安田

『定家の歌一首』赤羽淑、昭和五一(一九七六)年…赤羽・一首

『藤原定家(日本詩人選II)』安東次男、昭和五二(一九七七)年…安東

『拾遺愚草古注(上)(中)』昭和五八(一九八三)年、同六一(一九八六)年、その中の「拾遺愚草抄出聞書(C類注)」、「拾遺愚草不審」(以上(上)(上))、「拾遺愚草抄出聞書(D類注)」、「拾遺愚草摘抄」(以上(中)(中))、なお未刊国文古註釈大系7に、「拾遺愚草抄出聞書」(B類注)が収められている。順に〈C〉〈不審〉〈D〉〈摘抄〉〈B〉と略。

『藤原定家の歌風』赤羽淑、昭和六〇(一九八五)年…赤羽

『藤原定家研究』佐藤恒雄、平成一三(二〇〇二)年…佐藤・研究

「新宮撰歌合(建仁元年三月)全注解稿(一)〜(五)」(『大阪工業大学紀要(人文社会編)』五三〜五六卷、二〇〇八〜二〇一一年)、後『新宮撰歌合全釈』(歌合・定数歌全釈叢書十九)所収…奥野注